
嫌いなアイツは先生

夏祭 那奈緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嫌いなアイツは先生

【Zコード】

N7972X

【作者名】

夏祭 那奈緒

【あらすじ】

教師とか嫌いだし。ぜつてえーないけど、たとえ教師になるとしても、あんな先生には絶対になりたくないわ。

(前書き)

10 / 21 短編を初投稿
苦手な方は戻るボタンを押して、良作を探しに行くのが吉です。

中学に入学してすぐ、俺は嫌いな奴と出会った。

何を隠そうウチのクラスの担任になつたやつだ。新任だと自称しているが、どこか変。

同姓同名だし。

そのせいで友達におちょくられることになつたのは頭が痛い。

奴は社会の先生で、俺の最も嫌いで苦手な科目なのも社会。

受け入れられないのは当然。

しかし、それを知つてのことからいつも俺に問題を出してくる。この前だつて世界史の問題を振られた。

中学一年生に世界史上の産業発展について答える……ってわかるかつての。

そういうえば俺の得意科目の生物の問題を出したとき、先生はあつさりと答えた。あまりのあつさりで、俺の「正解」という言葉が女友達の黄色い悲鳴にかき消されてしまうぐらじ。

あんな教師なんて大っ嫌いだ。

あんなにつづつたくて面倒な教師のどじがいい。

ありえん。

けれど俺の友人たちはそれを否定した。どうせ来るなら担任がいいこと。
理由を聞けば、あんなに生徒をわかる教師は類を見ないと威張つて言つ。

だつて担任がこないのだから。

ほかの授業が自習になつたときは嬉しかつた。

ちくしょう……あの問題は高校生でも答えられるか微妙なラインの問題だったの。」

そういうえば、俺は部活に入っている。

入部したきっかけは小学校の時に仲良くしていた先輩がいたから……と、楽そうだから。

で、あることが担任の野郎は卓球部の顧問にまでなりやがった。副顧問といえど担任。忙しい身でありながらせつせつと部活に顔を出してきやがる。

でも部活内規則の基礎を作ったのもそういうれば先生だっけ。ウチの代は学校が弱かつたけど、先生のじこきのせいで他の学校から強校と言われるのにそう時間もかからなかつた。

先生はとんでもなく強くて、俺の全盛期のときでも歯が立たなかつし。ランキング戦では上位一位だったのに。

先生に練習させられて、幸か不幸か俺はそこまで強くなつてしまつた。

俺が全盛期のとき……それはつまり中学生三年のときだ。

三年のとき、先生は俺のクラスの担任ではなかった。

けれどじょっかいを出す」とは日々増えていて、もう社会に関していえば問題なくなつた。理科?も勉強しないでも点をとれっていたし。

進路のことになると「将来の夢」を書く欄が増える。やりたいことはなかつたけれど、書くこともなかつたので適当に書いた。

卒業式も淡淡と終わり、さて帰ろうかと思いきや先生と廊下ですれ違つ。会話はなかつたけどなんだか心地いい気分で別れ、不思議とそれ以来一度と会つことはなかつた。

今、教師になつた俺。

なんやかんやあつて奇妙なことに、新任になる学校は十年前の俺の母校だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7972x/>

嫌いなアイツは先生

2011年10月21日22時11分発行